



# 興 照 寺 報

令和元年11月

70号



発行 浄土真宗 興 照 寺  
〒890-0045 鹿児島市武一丁目25番12号  
電話 **099-254-3269** (代)FAX 099-254-0303

(本堂内のイメージ)



工程表 (予定)		
令和元年	11月	解体工事
令和2年	1月末	起工式、基礎工事
	5月	外部工事
	6月末	上棟式
	7月	内部工事
	12月 12月末	完成検査 引渡し

『いよいよ本堂の改築工事がスタート。』

来年末の完成に向けて本格的な工事が始まりました。

(設計・監理は株式会社東条設計、施工は林建設株式会社です)  
門信徒の皆さまには工事期間中、お参りの折、ご不便をおかけしますが、ご協力よろしくお願いいたします。

## ※お願い

工事期間中、**駐車場の利用が制限されます。**

法事や納骨堂のお参りなどで車で来寺される際は、近くのコインパーキングに留めていただく場合があります。ご留意ください。

ご不便、ご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

# 報恩講のご案内

- ・ 期日 十一月二十四日(日)
- ・ 時間 朝席 九時半より  
昼席 二時より
- ・ 講師 福高 英昭先生 (福岡県)

(今年は工事の関係でお斎(精進料理)はありません。お味噌汁は用意させていただく予定です)

## 追弔法要のご案内

報恩講の際、昨年十一月より本年十月までに亡くなられた方々の追弔の法要を午前十一時半より勤めます。ご遺族の方の多数のご参加をお待ちしております。



### 【報恩講】とは

浄土真宗で使われている『報恩』とは、宗祖親鸞聖人の恩に報いることを指しています。

その宗祖に対する恩とは、「この私を救わずにはおれない仏様(阿弥陀仏)のはたらきを知り、気づき、その教えを脈々と伝え、私たちに生きるよりどころ(道)を示し、阿弥陀仏の念仏をすすめていただいた」という恩です。『講』には仏教を講ずる法会、人々の集まりというニュアンスがあります。

当寺報恩講は毎年十一月に行われます。これは、親鸞聖人のご命日が旧暦の十一月二十八日であるからです。

阿弥陀仏の願いをいただいた私たちが、親鸞聖人を通して、常に生活の中で報恩感謝のお念仏を大事にしながら生かさせていただくことの喜びを改めて感じる場です。

(明彦記)

## 「それで いい」 「ありがとう」

(西本願寺「報恩講をご縁に」)

「さまざまに いろいろ あつて 喜怒哀楽の中 生きて 老いて 死んでいく」

「なごりおしく 思えども この世の縁が つきる時 力なくして 終わるとき 死んでいく」

「死んでいく そのままが 救われていく 私 安心出来ない 死にたくない 愚痴無知のまま 『そのままがいい』と 聞かせていただき 安心する」

「その時がくれば その時の姿のまま 死ねばいい 恰好など つけられるものでもないだろう」

「それで いい、それで いい ありがとう」

### 新事務職員紹介



海江田 久美 さん

九月からパートとして週に三日(四日、受付・電話対応・書類整理・パソコン処理などの事務仕事をお願いしています。来寺される方々や電話での問い合わせに丁寧に対応していただきます。また、清掃スタッフとして、

三月から岩下京子さんに週に二日、パートでお願いしています。おかげさまで寺内がきれいになってきました。



## 秋の永代経法要

熊本県 明尊寺

藤岡 孝教 先生

(投稿)

十月十九日(土)・二十日(日)、興照寺において、永代経法要が勤修されました。永代経法要とは、先だっていかれたお方をご縁とさせて頂いて、その亡くなられた方の願いであつたお念仏を喜び、私自身のご信心を深めさせて頂いて、永代経とは、いつまでも永久に末長くこの興照寺が続く限り、こうして春と秋に法要が営まれます。本堂は亡くなられた方の為にあらうように思われますが、亡くなられた方のありし日のお姿を偲び、私たち自身がこうしてご縁にあうためのものであります。その為には、本堂が護持されていかねばなりません。皆さま方がおあげいただくご懇志は、お寺が護持(財施)されていくために有難く使われ、また仏様の大切な教えが子や孫にいつまで



も伝えられていくように法座(法施)が開かれます。亡くなられた方々は、阿弥陀様に救われてお浄土に帰っていかれました。親鸞聖人様は、お浄土の世界を無量光明土(はかることができない明るい世界)であるとお示しになられ、真の報仏土(凡夫の身である私たちのために待たれている世界・いち終わったら帰らせていただくいのちのふるさと)と味わわれました。「夕焼け小焼けで日が暮れて、山のお寺の鐘がなる。お手々つないで皆帰ろう。カラスと一緒

に帰りましょう」とあります。が、夕方になったから早く帰りましょうという意味もあります。が、生きていくうちに、お寺にお参りして如来さまの救いにあつて、先だっていかれた方々が帰っていかれたお浄土に皆で手を取りあつて帰らせていただきましょうという意味がこの童謡には込められていると思います。

また、私たちはご恩を忘れてはなりません。親鸞様は、ご和讃の中に「如来大悲の恩徳は身を粉にしても報ずべし 師主知識の恩徳も骨を砕きても謝すべし」と教えてくださいました。師主や友達には勿論のこと、私たちが必ず救ってくださる如来さまのご恩には、身を粉にし、骨を砕く思いでご恩報謝の日暮らしをしていくと、ご恩と示しになられました。ご恩とは、原因を知る心とか、成されていることを感じるということ、物事のうしろに隠れた見えない部分といつていいでしょう。私たちは、①衆生の恩②国の恩③師の恩④親の恩⑤仏様のご恩を受けながら令和の時代を生かされているのではないでし

ようか。お浄土に帰っていかれた方々が、今私たちのところに「南無阿弥陀仏」のおはたらきとなつて帰ってきてくださつて、私たちがお寺に参るご縁を結んでくださったと味わい、お参りしたのではなく先だっていかれた方々に導かれて、お参りさせて頂いたのであります。生まれながら、残念ながらいつかいのち終わっていかなくはならない私たちでありますが、いのち終わったら阿弥陀如来さまに救われ、お浄土の世界へ帰らせていただき、先だっていかれた方々とお浄土で会わせていただく俱会一処、ともに一つ世界に帰らせていただくことを喜びながらこの人生を強く明るく生き抜きたいものでございます。



# 令和2年行事予定

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
一日(水)	十七日(火) 二十日(金) (金:お中日)	五日(日) 十八日(土) 十九日(日)	十三日(木) 十五日(土)	十九日(土) 二十二日(火) (火:お中日)	二十四日(土) 二十五日(日)	二十二日(日)	十三日(木) 十五日(土)	十九日(土) 二十二日(火) (火:お中日)	二十四日(土) 二十五日(日)	二十二日(日)	三十一日(木)
修正会(正月法要)	春季彼岸法要	花祭り・帰敬式・和順会総会 春季永代経法要	盆 (一部地域は日が違います)	秋季彼岸法要	秋季永代経法要	報恩講・物故者追弔法要	除夜会				

## 令和二年春季彼岸会法要

三月	十七日(火)	十八日(水)	十九日(木)	二十日(金)	お中日
午前	○	○	吹上	○	○
午後	○	吹上			

・講師 市川 幸仏先生(山口県)  
 (○のある日時にあります)

## 花祭り

・日 四月五日(日)

・時間 十時より

・場所 興照寺

(和順会総会も合わせて行います)

今年は工事の関係で余興はありません。



## 令和二年のご法事

左表の下の年に亡くなられた方が、それぞれの年回忌法要に当たっております。

〈ご法事の日時、場所等は 早めに寺にご相談ください。〉

一回忌	平成三十一年 令和元年
三回忌	平成三十年
七回忌	平成二十六年
十三回忌	平成二十年
十七回忌	平成十六年
二十五回忌	平成八年
三十三回忌	昭和六十三年
五十回忌	昭和四十六年

## 帰敬式受式希望者募集

帰敬式とは法名を受ける式です。法名は本来生前に受けるものです。

当寺では、花祭りの際に行っています。是非この機会にお受けください。

帰敬式の受式希望の方は、三月三十一日までにご連絡ください。

## カレンダー

「心のともじび」

西本願寺の鹿児島教区懇談会が毎年発行しているカレンダー「心のともじび」を同封しました。昨年からは門徒の皆さん全員にお届けしています。心にしみる言葉が載っています。お使いください。



今年も婦人会の方々がカレンダーのシール貼りを手伝ってくださいました

## あ)と)が)き)

今年も自然災害が多発しました。温暖化など地球環境が明らかに変化してきています。次世代への悪影響が危惧されるとともに、一人一人の自然に対する「やさしさ」が求められています。

(英憲記)